

2018年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/欧州泌尿器科学会 (EAU) 交流プログラム

2018 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

定平卓也 (岡山大)

私は、3月15日から20日までコペンハーゲン（デンマーク）で開催されたEAU 18に参加しました。EAUは世界最大の泌尿器科学術集会で世界各地から演題の登録があります。後期研修医3年目の時にEAU16（ミュンヘン）で初めて自身の研究成果を発表する機会を得ました。そこでは、質の高い研究が発表されていました。特に驚いたことは、臨床研究の発表の多くが前向き研究、他施設共同研究であり、臨床の現場に直結する研究であったことです。同じように、基礎研究も単に論文作成のための研究ではなく、臨床応用を見据えた研究でした。帰国後すぐにEAUのメンバー（EU ACME）になり、European Urologyを定期購読するようになりました。EAUは私にとって新しいリサーチの方法を知る恰好の場所だったため、この度、荣誉あるJUA/EAU Resident Programmeに御推薦頂いた那須保友教授並びに日本泌尿器科学会国際委員会の先生方にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、コペンハーゲンといえば『昼間からビール』は定番？と聞いていましたが、街中では昼食時にビールを楽しむ人の姿がよく見られました。驚いたのは、アンチョビの酢漬が想像以上に美味しく、酸っぱいのにとてもビールに合う最高のおつまみだったということです。「郷に入っては郷に従え」とカールスバーグの生ジョッキを傾けましたが、いつもよりも英語がスムーズに喋れたような気がします。

国際学会参加の意義は、多くの優れた発表・報告を聞くことによる新知見や情報の収集と習得、そしてロビーでの率直な意見交換、知人と旧交を温めることなどだと思います。しかし、いくら国際学会の参加が目的であっても、ホテルと会場の往復ではもったいないと考えるの



(右)から、後藤先生・寺西先生・定平
@ Resident dinner with Carlsberg.

が普通であり、いわゆる名所旧跡巡りや、街並み散策、名物料理の食べ歩きなどを楽しんでいる人も多くいました。私の一番の思い出は、同じResident Programmeに派遣された寺西先生と後藤先生と食事をし、新しい交友関係を築けたことです。社会人になるとどうしても交友関係が狭くなりがちで、他の医局の同世代の先生と関わりを持つ機会はほとんどありません。お二人の先生方とカールスバーグを飲みながら日常や研究生活のお話をしたことはとても新鮮でした。『飲みニケーション』の大切さを改めて感じましたし、寺西先生と後藤先生のお二人とはご縁を感じました。今後も交友関係を継続できたら最高です。最後になりますが、すべての関係者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。